

学校だより
2月号

学校教育目標：一人一人が輝き、共に生きる高松っ子の育成

平成22年2月12日

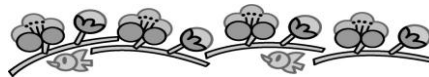
砂丘

かほく市立高松小学校
校長 竹中 伸治

例年より2日早く始まった1月でしたが、あっという間に過ぎてしまい早いもので2月も中旬です。この所、寒暖の差が激しく、保護者のみな様はかぜなどひいていらっしゃいませんか。一時猛威をふるった新型インフルエンザ（A型H1N1）も全国的に小康状態で、本校でもこの感染で休む子も殆どいなくなり、例年この時期に発生するインフルエンザも新型に圧倒されてしまったのか、感染して休む子もいなくお陰様でみんな元気に登校し勉強や各学級ではなわとびやスポチャレ8の字とび（県教委のランキング）などに挑戦しています。この後も、油断せず引き続き『うがい』・『手洗い』・人が大勢集まる場所での『マスク着用』・『規則正しい生活』・『バランスのよい食事』に心がけるなど感染への**予防を徹底**したいものです。



先週土曜日には、本年度最後の授業参観がありました。保護者・ご家族のみな様には、お寒い中、また何かとご多用の折りにもかかわらず、ご来校・ご参観くださりありがとうございました。それぞれのお子さんのこの1年のその子なりの成長を感じ取られたことと思います。10日（水）には、今春4月に本校に入学を予定している年長児の学校体験が実施されました。対面式で、現1年生がしっかりとした口調で進行・挨拶し、年長児の手を引きながら学校を案内する姿からも昨春4月からの確かな成長を見ることができました。



さて、先月の学校だよりで年を重ねるにつれて、**自ら住む郷土の風習・伝統や文化について理解し、地域への尊重・愛着心を育てることの重要性を思う**ようになったということを書きましたが、2月の学校集会で**高松地区の伝統行事である“火祭り”**の話をしました。お子さんは、お家で火祭りや赤飯を話題にしたでしょうか。こうした事柄は、これからも時期を見ながら語り続けるつもりです。ともあれ、高松地区の住民になった方は、なぜ2月5日に**赤飯が全戸配布**されるのか疑問に思われると思います。既に140年近くも続けられているので、旧来から高松に住まいされている方は殆どご存知のことと思いますが、この慣習のいわれについて旧高松町史には次のように書かれています。

毎年二月五日に字高松の額神社で鎮火祭が行われ、そのあと消防団の各種行事が行われる。これに関連して高松の特色ある行事として、字高松の全家庭へ高松区（自治文化協会）から赤飯が配られることになっている。家々では、これを神棚に供えて火災予防をお祈りし、そのお下がり家族全員でいただく習わしになっているが、以前は各家庭で蒸すことも多かった。この慣習の起こったいわれは、藩政の頃年代ははっきりしないが、二月五日に高松に大火があり、それを忘れないために村役人から毎年その日に村内全戸に赤飯を配ることになっていたが、慶応四年（1868）には赤飯を蒸す煩わしさをいとったためか、全戸に酒を配った。ところが、翌明治二年（1869）二月六日大火が起こった。高松の北端から発した火は東北風にあおられ、連日の好天気で乾燥していたこともあってまたたく間に延焼して火は南へ延びて行った。大町どおりの東側は現在の北陸銀行高松支店（現在のかほく支店）の場所にさいわいにも池があったために、その北隣で火が止まり、西側はさらに南へ延焼して中町の中程で破壊消防によって辛うじて火を食い止めた。北出（北

中町・上北町) はもとより、岸川町・桜井町の一部も焼けて一面焼け野原となり、全村の五分の二を焼失したといわれる。村民一同はこの大火は神の怒りにふれたものと考え、翌年から再び毎年二月五日に赤飯を配ることとし、食糧事情の極端に悪かった太平洋戦争中もこの慣わしを中断することなく今日まで続けられている。



2月3日の学校集会において、もう一つ2日(火)河北台中学校講堂で開催されたかほく市の『立志式』で本校卒業生の成長に感銘を受けたことを話したかったのですが、時間の都合でできませんでした。市民憲章唱和の発声の音頭をとったT・Yさん、“夢”と題して意見発表したM・Yさん、誓いの言葉を述べたM・Nさんは、本当に堂々としていて素晴らしい表現でした。また、**記念講演では**、「美術を通して学んだこと～現在・あの頃～そしてこれから」という演題で、抽象画を描く画家であり江戸川区立松江第一中学校の教師でもある**本校平成4年度卒業生の岡田卓也氏**が話されました。1月31日から2月6日の一週間、西田幾多郎記念哲学館において個展が開催されていたのでご覧になった方もおられることと思います。抽象画なので、元より浅学な私には到底作品の批評などできませんが、明と暗の色調や大胆な作風が印象に残ります。先生は、現在の自分を振り返り、中学生や高校生時代での美術教師との“出会い”を強調し、**出会いの大切さ**を語り、その出会いのための準備をしっかりと語りました。レベルが高い人ほどよく見えている。知らなければ見えない世界があり、知っていれば見える世界がある・・・と。**夢・目標をもって進み**、自分に限界をつくらず、決して**あきらめるな!**あきらめたら、ゲームセットだと中学教師らしく生徒にわかりやすい言葉で熱く語られました。高校時代の3年間、5時半頃に起床し6時過ぎの電車に乗り、美術担当の先生の指導を受けながら、始業前毎朝1時間のデッサンを欠かさず続けた。大学入試の際の高い倍率の中をくぐり抜け、美術を専攻し、そこで学んだ卒業生が毎年次々と社会に輩出する。その中で“画家岡田卓也の存在”を知って貰うのは簡単なことではない・・・。現在も高松中時代のような雰囲気・規模の学校で部活の指導と画家としての活動・勉強の両立に努められているそうです。

美術を通して学んだこと ～自己実現の三要素～

①描く

・習うより慣れろ ・継続は力なり

②見る

・井の中の蛙はだめ ・ライバルの力を知る

③見てもらう

・発表する ・意見を交わす ・交流する



2月26日(金)(1限～3限)

お世話になった6年生に感謝の気持ちを込めて、心から卒業を祝おうと5年生が中心になって在校生全員が一生懸命準備を進めています。ご多用とは思いますが、お時間のある保護者・ご家族のみなさんには、それぞれの学年なりの素敵な演し物をごらんください。

新しい教職員のご紹介

～よろしくお願ひします。～

番匠養護教諭が体調を崩し、1月18日から下記の職員が着任し、養護にあたっていますのでご紹介します。

◇前 郁美(金沢市内の病院勤務を経て)